

合言葉は

- ①ぼちぼち
- ②そこそこ
- ③できるしこ

第4夜

9月22日

「理事」として

NPO を経営する

第4回目は、「理事」の逆瀬川周作さん、高柳希さんのお二人をお迎えして、NPO の理事になったきっかけや理事を続けている思いなどを雪松直子（認定 NPO 法人アカツキ代表）がお聞きしました。

代表とともに設立時から

介護が必要な方の旅行など移動をサポート「NPO 法人あすも特注旅行班」



の理事の逆瀬川周作さん (NPO 法人あすも特注旅行班 理事)

瀬川さん、私どもアカツキの理事の高柳。お二人とも理事になったきっかけは、代表から声をかけられたからとのこと。逆瀬川さんと同期の看護師だった大橋さんがあすもを立ち上げたこともあり「代表とは言いたいことを言える関係」。

大学卒業後ディスカッション専門の会社を起業した高柳がアカツキ創業者の永田と出会ったのは、ベンチャー起業を目指す若者の集まりでしたが、2 人とも周囲からは浮いていたそう。「営利企業では難しい、一人一人が話し合っ決めていくということに関わりたくてジョインした」そうです。

理事の役割は弱める、手綱を引く、締める!?

「ジंकくん(永田)より長く理事をしようと決めていた」と高柳。創業者の影



高柳 希 (NPO 法人アカツキ 理事)

響力はどうしても強くなるのでバランスをとることを初めから考えていたそうです。また、逆瀬川さんは「手綱を引くのが自分の役割」と、長年の付き合いで代表が何か先走りしそうな予兆を感じたら、すかさず指摘する。そうした逆瀬川さ

んのお話を聞いて、高柳は「理事は経営や事業の拡大縮小を判断するものだと思っていたけれども、代表の想いを受け止めつつ、言うべきことを言う。特に職員では言いにくいことを伝えることも理事の役目かもしれない」とコメント。「代表との風通しがいいですね」など参加者からも代表やスタッフとの関係性に関心が寄せられました。

経営判断ミスは数字と現場がかかけ離れること

「自分が関わりたくてやっているから」(高柳)、「やりたいことと合致していたから、部活みたいなもの」(逆瀬川)と、関わり方についての質問には答えていたお二人。資金繰りなどの話もでしたが「理事として NPO を経営する」ことは必ずしも数字だけを見るのではなく、代表との関係性や職員への思いも重要なだろうと感じました。

代表は実は「代表取り締まれ役」?、「座布団一枚!」など、参加者からも楽しく賑やかなコメントをいただきながらの第4回でした。

(白神加奈子: アカツキ職員)

インターンの目!



理事という堅いイメージだったのですが、スタートアップの中での逆瀬川さんの代表との掛け合いや、理事や職員は親戚のような存在という高柳さんの言葉によってそれが覆されました。このような関係性が団体運営に上手く働きかけているのかなと思います。お二人とも自分へのメリットではなく、関わりたいから関わっているところが素敵だと思いました。「もし役員報酬があったら、逆に自分のやる範囲はこれくらいと、制限をかけてしまうかも」という話には共感しました。

(ひろしー竹本^{もひろ} 智尋一: アカツキインターン)

編集・発行: 認定 NPO 法人アカツキ

<https://aka-tsuki.org/>



本事業は、完全に自主財源のみで行なっています。QR コードからご寄付いただけるとうれしいです。